9.5 補機駆動用燃料設備

## 9．5．1 燃料設備











第9－5－1－2－1 図 大容量送水ポンプ（タイプ I ）（燃料タンク）構造図別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲
［大容量送水ポンプ（タイプI）（燃料タンク）］

| 主 |  | （mm | 寸 |  | 許 容 範 囲 | 根 拠 |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
| た |  | て | 1480 |  |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |
|  | 横 |  | 540 |  |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |
| 高 |  | さ | 640 |  |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |

注：主要寸法は，工事計画記載の公称値を示す。


第 9－5－1－2－2 図 大容量送水ポンプ（タイプ II）（燃料タンク）構造図別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲
［大容量送水ポンプ（タイプII）（燃料タンク）］

| 主 |  | （mm | 寸 |  | 許 容 範 囲 | 根 拠 |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
| た |  | て | 1480 |  |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |
|  | 横 |  | 540 |  |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |
| 高 |  | さ | 640 |  |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |

注：主要寸法は，工事計画記載の公称値を示す。


第 9－5－1－2－3 図 原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット（燃料タンク）構造図別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲
［原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット（燃料タンク）］


注：主要寸法は，工事計画記載の公称値を示す。


第9－5－1－2－4 図 タンクローリ構造図別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲

| 主 <br> 要 | 寸 法 | 許 容 範 囲 | 根 拠 |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
| 胴 長 径 | 1800 |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |
| 胴 短 径 | 930 |  | 同上 |
| 胴板厚さ（上板） | 3.2 | $\begin{gathered} + \text { 規定しない } \\ 0 \mathrm{~mm} \end{gathered}$ | 消防法で規定された最小板厚 |
| 胴 板 厚 さ | 3.2 | $\begin{aligned} & \text { + 規定しない } \\ & -0.4 \mathrm{~mm} \end{aligned}$ | 同上 |
| 鏡 板 厚 さ | 3.2 | $\begin{aligned} & \text { + 規定しない } \\ & -0.4 \mathrm{~mm} \end{aligned}$ | 同上 |
|  | $\begin{aligned} & \text { (鏡板長径) } \\ & 1800 \end{aligned}$ |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |
| に係る寸法 | （鏡板短径の <br> 2分の1） <br> 65 |  | 同上 |
| 排出口管台外径 | 136.4 |  | 同上 |
| 排出口管台厚さ | 3.2 | $\begin{aligned} & \text { + 規定しない } \\ & -0.4 \mathrm{~mm} \end{aligned}$ | 消防法で規定された最小板厚 |
| $\begin{aligned} & \text { マ ン ホ ー ル } \\ & \text { 管 台 } \\ & \hline \end{aligned}$ | 406.4 |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |
| $\begin{aligned} & \text { マ ン ホール } \\ & \text { 管 台 厚 さ } \end{aligned}$ | 3.2 | $\begin{aligned} & + \text { 規定しない } \\ & -0.4 \mathrm{~mm} \end{aligned}$ | 消防法で規定された最小板厚 |
| $\begin{aligned} & \text { マ ン ホー ル } \\ & \text { ふ た 厚 さ } \end{aligned}$ | 3.2 | $\begin{aligned} & \text { + 規定しない } \\ & -0.4 \mathrm{~mm} \end{aligned}$ | 同上 |
| 全 長 | 3350 |  | 製造能力，製造実績を考慮した メーカ基準 |
| 車 両 全 長 | 5920 | － | 概略寸法のため規定しない |
| 車 両 全 幅 | 2200 | － | 同上 |
| 車 両 高 さ | 2420 | － | 同上 |

注：主要寸法は，工事計画記載の公称値を示す。
軽油タンク室 (H) O。P。6。40

注：寸法はmを示す。


原子炉建屋


軽油タンク室（H）

$$
\mathrm{B}-\mathrm{B} \text { 断面図 }
$$

注：寸法はmを示す。工事計画認可申請 第 9－5－1－3－2図女川原子力発電所 第2号機
名 補機駆動用燃料設備
機器の配置を明示した図面（その2）
東 北 電 力 株 式 会 社


注：寸法はmを示す。


緊急用電気品建屋

$$
A-A \text { 断面図 }
$$



$$
\mathrm{B}-\mathrm{B} \text { 断面図 }
$$


$\theta P N$

注：寸法はmを示す。工事計画認可申請 第9－5－1－3－4図女川原子力発電所 第2号機





注1：高圧炬心スプレイ系ディーゼル発電設備燃料移送ポンプ入口配管分岐点～高圧灲心スプレイ系ディーゼル発電設備軽油タンク払出口は非常用電源設備の非常用発電装置（ガスタービン発電設備，可搬型代替交流電源設備可搬型代替直流電源設備，可搬型窒素が大供給装置発電設備と兼用
注2：寸法はmを示す。



第 9－5－1－4－1～4図 補機駆動用燃料設備 主配管の配置を明示した図面（その $1 \sim 4$ ）別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲

## ［主配管］

管NO．1，2＊


管NO．3＊


注：主要寸法は，工事計画記載の公称値。
注記＊：主配管の配置を明示した図面の管NO．を示す。
9.6 非常用取水設備

9．6．1 取水設備


第 9－6－1－1－1 図 貯留堰（No．1），（No．2），（No．3），（No．4），（No．5），（No．6）構造図 別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲

| 主要寸法 |  | 許容範囲 | 根 拠 |
| :---: | :---: | :---: | :--- |
| 天端高さ | $0 . \mathrm{P} .-5.3 \mathrm{~m}$ | $\pm 30 \mathrm{~mm}$ | 土木工事共通仕様書による管理基 <br> 準 |
| 天端幅 | 2.5 m | $\mathrm{L}<20 \mathrm{~m}-50 \mathrm{~mm}$ <br> $\mathrm{~L} \geqq 20 \mathrm{~m}-100 \mathrm{~mm}$ | 同上 |
| たて | 1.2 m | 士 <br> 横 |  |

注：主要寸法は，工事計画記載の公称値を示す。


第 9－6－1－1－2 図 取水口構造図 別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲

| 主要寸法 <br> $(\mathrm{m})$ |  | 許容範囲 | 根 拠 |
| :--- | :---: | :---: | :--- |
| たて | 33.0 | $\pm 30 \mathrm{~mm}$ | 土木工事共通仕様書による管理基準 |
| 横 | 39.8 | ＋規定しない <br> -100 mm | 同上 |
| 高さ | 12.0 | $\pm 30 \mathrm{~mm}$ | 同上 |

注：主要寸法は，工事計画記載の公称値を示す。


A－A 断面



B－B 断面図

注1特記なき寸法は公称値を示す。

| 工事計画認可申請 |  |  |  | 第 9－6－1－1－3 図 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
| 女川原子力発電所 第2号機 |  |  |  |  |  |  |
| 名 | 取水路構造図 |  |  |  |  |  |
| 東 北 電 力 株 式 会 社 |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 0415 |

第 9－6－1－1－3 図 取水路構造図 別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲

| 主要寸法 <br> （m） |  | 許容範囲 | 根 拠 |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
| たて | 13.4 | $\pm 30 \mathrm{~mm}$ | 土木工事共通仕様書による管理基準 |
| 横 | 119.9 | ＋規定しない $-100 \mathrm{~mm}$ | 同上 |
| 高さ | 5.5 | $\pm 30 \mathrm{~mm}$ | 同上 |

注：主要寸法は，工事計画記載の公称値を示す。


第9－6－1－1－4 図 海水ポンプ室構造図 別紙

工事計画記載の公称値の許容範囲

| 主要寸法 <br> （m） |  | 許容範囲 | 根 拠 |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
| たて | 32.5 | ＋規定しない $-30 \mathrm{~mm}$ | 土木工事共通仕様書による管理基準 |
| 横 | 77.0 | ＋規定しない $-50 \mathrm{~mm}$ | 同上 |
| 高さ | 28.4 | $\pm 30 \mathrm{~mm}$ | 同上 |

注：主要寸法は，工事計画記載の公称値を示す。


## 9.7 緊急時対策所



